

相談者の抵抗や反論がないので、自分の見立てと解決策を書くことができます

試験直前 オンライン1級論述試験 10点アップ 100分集中講座

毎回55点から59点の人は必修です。試験会場ですぐに(思いついたことを)書き出すのではなく「何を書くべきか」の「答案構成」が合格の秘訣

日程	2022年12月9日(金) 20:00~21:40 (100分)	
受講料(税込)	会員: 12,000円	一般: 15,000円 メルマガ会員の方は一般受講料でご受講ください。
	お申込みいただきましたら、教材データと招待URLをお送りいたします。	
内容	<p>※ 試験直前のポイントを学び、合格答案が書けるようになります。 本講座では、論述試験で、60点を超える「合格答案」を書き上げるための方法論と問題へのアプローチの仕方、さらには、高得点を狙える答案の書き方をお伝えします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論述試験の合格ラインを超えるためには、技能検定の「論述試験は実技試験」という本質を理解したうえで試験問題に向かい、解答を記述することが不可欠です。 ・論述試験の各問いにおける「問題」の意味を正しく把握したうえで、解答として、何を、どう記述するかを見極める「答案構成」を行って答案を書き始めることが合格ラインに到達できる要件です。 ・採点者が採点の時に着目しチェックしていること、書くと加点されるものと書いても加点されないものとを峻別が必要です。 ・「必須問題」の得点を合格圏内にする解答法、選択問題」で得点を高めるための解答する「分野」を選択する方法を示します。 <p>たとえば、必須問題、問1の「相談者がこの面談で相談したい問題は何か」についての解答作成では、何をどう書くと得点になるのかを見極めます。解答用紙の枠に、相談者の発言の中から「問題」を見つけだして記述しなければなりません。しかし、多くの解答用紙には、問題以外の、相談者の置かれている状況などが書かれており、それは、「問題」ではないため、記述しても点数にならないのです。</p> <p>問2は、キャリアコンサルタントとして「あなたが考える相談者の問題」は何かを記述します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒専門職の視点で、相談者が気付いていない事例相談者の面談技法上の問題を専門用語(キーワード)で記述する必要があります。 ⇒キャリアコンサルティングのシステムティックアプローチのプロセスで、4つのテーマを記述すると得点になります。 ⇒この2点を意識しただけで、加点される文章に書くことができますようになります。 <p>* 解答用紙によく見かける誤字⇒「かちかん」を正しく書けますか? 合格者からの情報: 試験会場で役立つ筆記用具から差をつける。</p>	

人気講座

■受講することで、理解し身につく内容

- ・問題へのアプローチ法と、問1から問3で何を問われているのか、それに対して何をどう書くと合格答案になるかのイメージを掴みます。
- ・問1と問2の解答を導く方法、問3を解答するための考え方を示し、答案に記述するキーワードを探すポイントを学びます。
- ・ご質問にはなんでもお応えしますので、日頃の疑問点を解決してください。